

再生稲とイタリアンライグラスの 組み合わせ放牧技術

目的と特徴

- ・再生稲とイタリアンライグラスの組み合わせ放牧技術を開発しました。
- ・再生稲水田にイタリアンライグラス不耕起播種により、簡単に水田を草地化できます。
- ・水田に電気牧柵を設置、小規模移動放牧で省力的な放牧が可能です。

再生稲

- ・嗜好性が良く、栄養価も高く、低コスト
- ・イタリアンライグラス不耕起播種で草地化が簡単
- ・肉用牛（繁殖雌・肥育）の放牧が可能
- ・電気牧柵による小規模移動放牧で省力的

再生稲間に緑のイタリアンライグラスが見える

この技術を導入すると

飼料コスト 30[※]~60^{※※}%削減可能です

※ 放牧期間中1日1頭当たりの飼料生産費と当所繁殖雌牛の飼料費を比較

※※ 水田放牧繁殖雌牛1日1頭当たりの飼料費等と当所繁殖雌牛の飼料費を比較

成果

- ・水田放牧は、早期米（コシヒカリ、キヌヒカリ等）の再生稲が最適です。
- ・再生稲の出穂前に定期灌水と5 kg N/10aの施肥をすることで1.5倍の収量を確保できます。

水田放牧の手順

再生稲

放牧対象牛 繁殖雌牛、放牧肥育牛
放牧期間 10月から放牧可能

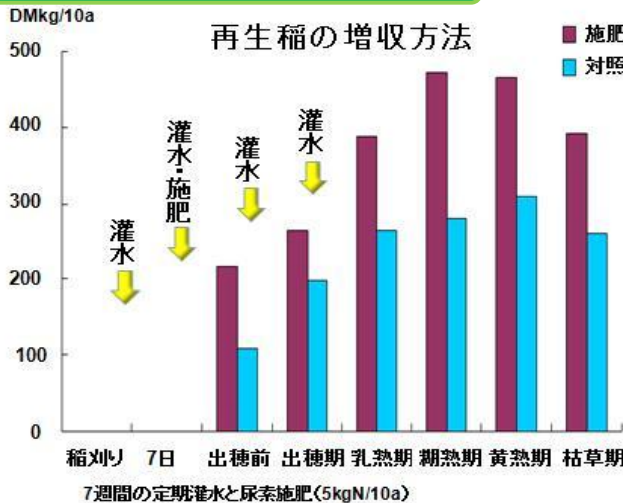
- 8月下旬の早期米収穫直後から定期的灌水（約7週間、水田と天候の様子を見ながら実施）
- 9月上旬に尿素肥料(5kgN/10a)施肥で1.5倍の収量

再生稲・イタリアンライグラス

放牧対象牛 繁殖雌牛、放牧肥育牛
放牧期間 11月中旬から翌年2月末まで放牧可能

- 8月下旬の早期米収穫直後から定期的灌水（約7週間、水田と天候の様子を見ながら実施）
- 9月下旬、再生稲が生育した水田にイタリアンライグラス種子を不耕起播(5kg/10a)
- 10月上旬に48号化成肥料（5kg/10a）を施肥

再生稲の増収方法と消化率



再生稲の消化率

	出穂期	黄熟期	枯草期前期	枯草期中期	枯草期後期
粗蛋白質(%)	72.1	59.7	57.5	52.7	33.1
粗繊維(%)	81.3	54.0	48.7	47.7	30.9
可溶性無窒素物(%)	73.1	75.3	62.7	60.1	55.2
TDN(%DM)	65.4	63.8	52.1	47.0	44.2

飼料コスト

飼料費(飼料生産費)の比較

水田放牧(肥育牛)*	普通肥育**
279円/日/頭	591円/日/頭
水田放牧(繁殖雌牛)***	繁殖雌牛**
131円/日/頭	323円/日/頭

* 放牧期間1日1頭当たり+トウモロコシサイレージ1日1頭当たり
** 当所試験牛の経費
*** 再生稲1日1頭当たり生産費+配合飼料1kg(35円/日/頭)

水田放牧飼料費(飼料生産費)

項目	H24年度	項目	H24年度
水田放牧実施状況		再生稲・イタライグラスの飼料生産費	
放牧頭数(頭)	3	48化成肥料代(円)	8,165
水田放牧日数(日)	123	イタライグラス種子代(円)	62,010
再生稲(日)	22	1日1頭当たり生産費(円)	231.6
再生稲・イタライグラス(日)	101	放牧期間1日1頭当たり飼料生産費(円)	207.3
再生稲の飼料生産費		補助飼料費	
尿素肥料代(円)	6,323	トウモロコシサイレージ1日1頭当たり(円)	71.7
1日1頭当たり生産費(円)	95.8		

対象作物・家畜、普及対象

- 再生稲、イタリアンライグラス、肉用牛、西日本

対象農家

- 稲作・肉用牛複合経営農家

必要な道具

- ソーラー発電機、電気牧柵、給水設備、飼槽、鉋塩ラック

その他

- 水田放牧開始にあたり、事前に付近住民や関係機関に知らせておきましょう。
- 放牧牛の健康管理のため、定期的にダニ駆虫と肝蛭駆虫薬を投与しましょう。